

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて				
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等		
数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、数学の身の回りでの活用についての理解を深める。		数量や図形の性質を見出し、情報を書き出し整理する。その後発展的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現する力を身に付ける。		
生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)	
第1学年	<ul style="list-style-type: none"><li>既習事項である整数の加減乗除や分数の計算に躓いている生徒がいる。ア</li><li>事象における数量や数量の関係を、文字を使って表す力が不十分であるア</li><li>文章から必要な情報を読み取る力や、自分の考えを文章にまとめる力が不十分である。イ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業冒頭で5分間ドリルを行い、既習事項の確認を行う。また、ミライシード等を活用し、家庭学習での活用方法についての指導を行う。ア</li><li>関数の学習で数量や数量の関係を文字式で表したり、式の意味を読み取ったりする時間を設定する。ア</li><li>文章から必要な情報を表・式・グラフに表す時間や、単元末に学習問題に対する自分の考えを書く時間を設定する。イ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>通年</li><li>10～11月</li><li>10月以降</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>5分間ドリルの実施やミライシードの活用により、正負の数や方程式の計算の知識および技能が身に付いた。</li><li>式の意味を読み取ることは今後も練習が必要であるが、数量の関係を文字式で表す力を高めることができた。</li><li>単元毎に章のレポートを書く取り組みを通して、文章を読み取ったり、自分の考えを表現したりする力を高めることができた。</li></ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"><li>既習事項である文字式の計算や等式の変形に躓いている生徒がいる。ア</li><li>連立方程式と1次関数との関連性についての理解が不十分である。ア</li><li>文章から必要な情報を読み取る力や、自分の考えを簡潔に文章にまとめたり発言したりする力が不十分である。イ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業冒頭で5分間ドリルを行い、既習事項の確認を行うと共に、学習内容に合わせた課題を出し、家庭学習の習慣をつける。ア</li><li>1次関数を文字が2つの方程式として捉え、グラフを用いて視覚的に理解が深まるよう指導する。ア</li><li>文章題に触れる機会を増やし、文章を図式化する活動を継続的に行う。また、数学的に表現する機会を多く設け、他者の考え方を多く聞くことで理解が深まるように指導する。イ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>通年</li><li>9～11月</li><li>9～11月</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>5分間ドリルや小テストなどを定期的に行うことで、連立方程式の解き方を定着させることができた。</li><li>文章を読み取り、それを論理的に表現する証明の書き方にはまだ反復練習が必要と思われるが、他者の考え方や書き方について触れることで多面的・多角的に捉える力を高めることができた。</li></ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"><li>既習事項である文字式の計算に躓いている生徒がいる。ア</li><li>関数関係をつかみ、表、式、グラフに表す力が不十分である。ア</li><li>文字を用いていろいろな数を表したり、目的に応じて式を変形したりする力が不十分である。イ</li><li>図形から適切な条件を探したり、論理的に説明したりすることが苦手である。イ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業冒頭で5分間ドリルを行い、既習事項の確認を行う。また、授業の内容に合わせた範囲の問題集を毎週解かせていくことで、家庭学習の習慣の定着を行う。ア</li><li>関数関係のとらえ方を確認し、表・式・グラフの関係について繰り返し考えさせる。ア</li><li>図形に数値を書き込みさせることで、視覚的にも理解が深まるように指導する。イ</li><li>合同条件などを復習しながら、相似の証明問題などの書き方を再確認して進める。イ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>通年</li><li>9月</li><li>9月～10月</li><li>10～11月</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>繰り返し既習事項の確認を行ったことで、基礎計算力や知識の定着が見られた。</li><li>課題学習を通して、表、式、グラフの関連について考え、関数関係を表、式、グラフに表す力を高めることができた。</li><li>類題への取り組みを通して、図形の性質を見いだす力を高めることができた。</li></ul>
■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について		■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について		
1年 習熟度クラスに応じた学習課題を用意し、タブレット端末を活用して解き方の共有を行う。【重点：個別】		1年 単元の始まりに全体の流れを示し、単元毎に振り返りシートを活用した振り返りを実施する。		
2年 クラスに応じた学習課題を用意し、またタブレット端末で解き方や考え方を共有して自分の考えをより深める。【重点：個別・協働】		2年 単元の始まりに全体の流れを示し、単元の終わりに目標を踏まえて振り返りシートを記入させる。		
3年 クラスの習熟度に応じた課題を用意し、タブレット端末を活用し解き方の共有を行い、多角的に問題を考えられるようにする。【重点：個別・協働】		3年 単元の始まりに全体の流れを示し、各単元ごとに、目標を踏まえた振り返りを記入させる。		